

健康
情報

全身の健康状態や骨の状態を確認し、可能かどうか判断。その後、治療計画を立てていきます。

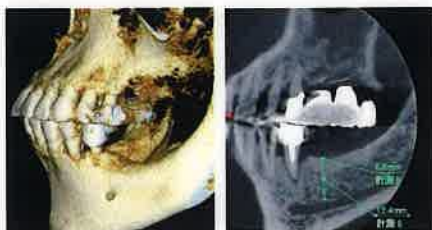
シリーズ「歯の健康」
～インプラントを考える～

3. インプラントって誰でもできるの？

今回はシリーズ第3回目として、インプラントの治療法について、その適応と術式を踏まえながらお話ししたいと思います。

まず治療を開始する前に、全身の健康状態をチェックします。高度な糖尿病、高血圧、心臓病、肝臓病、血液疾患、骨粗しょう症などの方は、インプラント治療を控えた方が好ましい場合もあります。しかし、このような場合でも、きちんと治療を受けて症状が安定していれば手術は可能です。また喫煙をされている方は術後の経過が良くないことがありますので、できるだけ禁煙されることをおすすめします。かかりつけの歯科医院にてご相談ください。

次に、レントゲンにより骨の状態を診査します。これはパノラマ、デンタル写真などといわれるX線写真を用います。最近では、より正確な診断を行うためのCT写真を撮ることが主流になってきています。CTのデータを解析ソフトを用いて解析することで、3次元的に骨や軟組織の状態を正確に知ることができるとともに、骨の密度・幅・高さを把握することができます。これにより安全で無理のないインプラント治療を受けることが可能になります。インプラント治療を行うには十分な骨が必要ですが、CTを用いることにより術前に骨の量が十分かどうか診断できます。骨の量が十分でない場合、骨の移植や骨を作る処置(GBR)を行うことでインプラント治療が可能になるケースもあります。



写真左／CT解析ソフトにより表された3次元像
写真右／同ソフトによる骨幅と神経までの距離の測定

カラダの健康

健



浪瀧歯科医院
浪瀧文彦 歯科医師

大阪歯科大学卒業
インプラントスタディーグループ松山会員

次にインプラントの術式について説明します。歯周病や全身状態の確認等の検査を行い、インプラント治療が可能かどうかを診断した後に治療計画を立てます。そして局所麻酔のもとにインプラントをあごの骨に埋め込みます。その後、骨とインプラントがしっかり結合するまで2～6カ月待ちます(期間は骨の状態により前後します)。この間、必要に応じて仮歯を入れることもあります。

インプラントが骨としっかり結合したら、土台となる部分を装着し型をとりまします。後日、出来上がった人工の歯をかぶせて完成です。これで治療は一応終了しますが、インプラントを長持ちさせるためには毎日のケアやインプラントの状態のチェックが必要となりますので、定期的メンテナンスを受けることが必要になります。

このようにインプラント治療は、正確な診断と高度な技術が要求されます。インプラント治療を開始する前に、信頼のおける歯科医院でしっかりと説明を受け、インプラント治療の良い点やリスクをご自身が十分に理解し納得した上で、治療を受けることが大切です。

次回の「シリーズ『歯の健康』～インプラントを考える～」では、「インプラントのメンテナンス」などについて、ご説明いたします。